

## アジア・太平洋研究センター主催講演会

日 時：2015年1月21日（水）

場 所：名古屋キャンパス R棟7階 会議室

テーマ：友愛の秘密——秘密結社の世界史——

報告者：孫 江（南京大学歴史系教授，南京大学学衡研究センター長）



フランス大革命以来、「友愛」という言葉は共同体，教会などを超え，ナショナルの源泉と見なされ，語り続けられてきた。それと異なって，本講演の趣旨は，秘密結社の歴史を通じて友愛の「秘密」を考えるものである。

### 一、明示的契約と暗黙の契約

契約とは，共通のルールに従い，社会的共同の利点を獲得するために，熟慮のうえで団結した人々によって結ばれたものである。なぜ，時代を超えて契約は必要とされるのか。デュルケムは『社会分業論』の中で，契約を守る契約，即ち「契約における非契約的要素」という問題を提起した。これに対して，ジンメルは『社会学——社会化の諸形式についての研究』のなかで，「秘密結社」を取り上げ，「秘密は，公然たる世界とならぶ第二の世界のいわば可能性をあたえ，そしてその公然たる世界は，この第二の世界の可能性によってきわめて強く影響されている」と指摘した。

### 二、記号として「血縁」・「骨肉」

ヨーロッパでは，「血縁」という観念に基づいて擬似的人間関係が構築される。こ

れと対照的に、アジア（日本と中国）では、「骨肉」や「肉親」が人間関係の基礎と考える傾向がある。これまでの中国研究では、宗族内部の人間関係は自然形成的な「血縁関係」によって結ばれたものとするのが一般的である。しかし、実際には、宗族内部において、非自然形成的な「血縁関係」、厳密に言えば「骨肉関係」が普遍的に存在している。これに対して、「異姓結拜」は往々にして宗族の枠を超えるものであり、そのような結合は宗族の結合と相容れない傾向がある。秘密結社と呼ばれる「異姓結拜」の関係はまさにこのような結合である。

### 三、秘密的結社

「秘密結社」という言葉を文字通りに解釈すれば、その内部の構成や仕来りが外部に知られていない組織である。秘密結社は、その結成の在り方に基づいて、①縦関係の秘密結社、②横関係の秘密結社、③縦横交叉関係の秘密結社、の三つに分類することができる。「異姓結拜」を特徴とする秘密結社の結合原理はそれ自体宗族社会に由来したものであり、異なる宗族が他の宗族に対抗するために「異姓結拜」の形で新たに結合することはしばしばあった。一方、一部の宗族において、特に清朝時代の宗族において、秘密結社が宗族社会内部の従来の人間関係を否定したことから、「異姓結拜」を排除しようとする傾向があったのである。

### 四、秘密結社による革命の創出

1899年、孫文が率いる革命党のメンバーは三合会や哥老会の首領を集めて、香港で興漢会を結成した。その際に、血を飲めて盟約を結ぶ儀式が執り行われた。出席者の一人宮崎滔天はその時の様子を次のように記している。「孫君（孫文）を推して統領となし、会名を改めて○○堂○○会と称し、綱領三則を定め、鳩血を啜りて之を誓ひ、印章を作りて孫君に捧ぐ、實に是れ空前の快事なり、但余未だ其詳を言ふ能はざるを恨む、事他人の身上に関するを以てなり」。オランダ人研究者 ter Haar は、血を飲めて盟約を結ぶという中国の儀式を西洋のそれと比較して、次のような見解を提起した。すなわち、中国の場合、儀式は「空洞の儀式」(empty ritual forms) であり、その目的は儀式の際の言葉と文字に含まれた意味と力を強調することにある。それに対して、西洋の場合、儀式の目的は義兄弟の間の血縁関係を作り出すことにある、という。しかし、中国人の契りを結ぶ際の儀式に「骨を結ぶ」、すなわち異姓兄弟という役割があることは無視できない。

## 五、結論

ジャック・デリダは「友愛のポリティックス」のなかで、「おおわが友たちよ，一人も友がない」（アリストテレス）と「おおわが敵たちよ，一人も敵がない」（ニーチェ）を踏まえて、「友愛」の政治学を語った。歴史を語る際，われわれは，人間集団の集合離散の背後に「友愛」という要素が潜んでいることを視野に入れるべきであろう。

（文責：宮原 佳昭）